

はじめに

2015年10月1日、大和小田急建設とフジタはひとつとなり、大和ハウスグループの一員として新しく強く生まれ変わりました。新生フジタの強みは、海外事業、都市再生、環境、大和ハウスグループとしての総合力です。フジタの技術開発は、これらの強みをさらに強くするために、オンリーワンあるいはナンバーワンを目指して進めています。その成果の一部を、このたびフジタ技術研究報告第51号として発刊することになりました。ご査収よろしくお願いします。

今回の報告では、土木技術5編、建築技術7編、環境技術3編の合計15編の論文を掲載しています。土木技術については、国土強靱化に対応して壁状構造物、老朽化トンネル、ため池やダム の性能評価やリニューアルに関するものと、コンクリートの施工品質確保に関する研究を報告します。建築技術については、設計や作業所の省力化・合理化に関するもの、杭あるいは天井の耐震性評価、外装タイルや床スラブの品質確保に関する研究を報告します。また、環境技術については、建物（特に病院）の環境性能向上のほか、土壌浄化工法、焼却灰の無害化技術の開発について報告します。これらの成果は、フジタの強みを実現するために、各分野での技術戦略に基づいて実施した結果ですが、特に品質確保や性能向上と合理化や省力化との両者を実現することが、重要なのは言うまでもありません。

姉齒事件から10年後の2015年は、東洋ゴムの免震ゴム問題と旭化成建材の杭問題という、建設業界の信頼に関わる大きな事件が再度発生した年となりました。10年前は設計行為の不正でしたが、今回は製品の性能データあるいは施工データの偽装です。常に、設計・施工の品質確保や性能向上と、合理化や省力化との両者を実現するために、技術開発を進める者としては非常に残念なことです。今後とも、他人の事とは思わず、自身にも鑑みて技術開発を進め、社会に貢献しなければならないと感じています。皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いします。

2015年 11月

株式会社フジタ 上席執行役員 技術センター所長 小林勝巳